

平成 30 年度

保健所の運営方針

<部の構成>

保健企画課、保健衛生課、保健予防課、保健センター

<担当事務>

- (1) 健康増進に関すること。
- (2) 医事及び薬事に関すること。
- (3) 食品衛生・環境衛生に関すること。
- (4) 狂犬病予防、動物の愛護及び管理に関すること。
- (5) 感染症及び難病の対策等に関すること。
- (6) 精神保健に関すること。
- (7) 母子保健に関すること。

<部の職員数>H30年4月1日現在

正職員	125 名
再任用職員	- 名
任期付職員	1 名
非常勤職員	59 名
合計	185 名

※他団体等への派遣職員、臨時職員を除く

1. 基本方針

保健所では、妊娠・出産から子育て期、さらには成人・高齢期まで切れ目なく、全ての市民の健康づくりに関わる取り組みを進めています。専門的には、地域の公衆衛生に関わる、医事・薬事、食品衛生、環境衛生、感染症予防、精神保健、難病支援等のさまざまな業務を担っています。

第5次枚方市総合計画に掲げる「公衆衛生や健康危機管理が充実したまち」の実現に向け、市域の保健衛生行政の中核となり、市民の健康増進と生活の安全・安心の確保に努めています。平成30年度の市政運営方針に沿って、「健やかに生きがいを持って暮らせるまち」を基本目標とした事業を推進することにより、市民の健康寿命の延伸をめざします。

2. 重点施策・事業

(1) 若年層への薬物乱用防止啓発の強化

方向性	<p>若年層への薬物汚染が急速に広がり大きな社会問題となっており、青少年による薬物乱用の根絶及び規範意識の向上は重点課題となっています。</p> <p>そこで、小学生・中学生を対象に薬物乱用防止教室に取り組む各団体と情報交換・情報共有を行い、連携・協力体制の強化を図りつつ、特に青少年・若年層に対して違法な薬物の危険性について正しい知識の普及をめざして啓発活動を行います。</p>
取り組み	<p>薬物乱用防止街頭キャンペーンを実施します。また、本市オリジナルの啓発リーフレットを作成し、市内の全小学6年生に配付するとともに、薬物乱用の危険性をわかりやすく解説した児童向け書籍を市内の全小学校へ寄贈し、活用を図ります。配付の際には、専門知識を有する講師を派遣し、リーフレット及び書籍の解説を行うとともに、アンケートを実施します。</p> <p>《目標値》</p> <p>薬物乱用防止キャンペーンでの啓発資材の配付数：1500個（平成29年度1500個）</p> <p>平成30年度当初予算：1,107千円（うち746千円を「こども夢基金」より充填）</p>

(2) 働く世代の健康づくり支援	
方向性	生活習慣病予防やメンタルヘルス対策を行うには、生涯を通じた健康管理を支援する必要があります。生活習慣病やメンタルヘルスの不調は、働き盛りの年代に端を発していることが多く、健康で長く働き続けるためには事業所が健康づくりに取り組むことが重要です。従業員への健康投資を行うことは、企業の業績向上やイメージアップにつながると期待されており、事業所が従業員に対して行う健康づくり活動を保健所が支援することで、働く世代の健康に対する意識の向上を図ります。
取り組み	「ひらかた健康優良企業」に登録された事業所に対して、健康づくりの取り組みを事業所とともに検討し、健康に関する情報提供や健康教育の実施などの支援を行います。また、市のホームページに掲載するなど、健康づくりを通じて事業所のイメージアップを図ります。 <<目標値>> ひらかた健康優良企業への健康教育実施回数：20回（平成29年度16回） 平成30年度当初予算：94千円

(3) 食中毒など健康危機事象発生 の未然防止	
方向性	安全で快適に生活できるよう、食品関係施設や理美容所などの生活衛生施設における衛生水準の向上を図り、健康危機事象発生 の未然防止をめざします。
取り組み	平成30年度に改正旅館業法が施行され、また、食品衛生法の改正が見込まれる中、HACCP（ハサップ）による食品衛生管理の手法等、新たな衛生基準を普及・啓発し、食中毒などの健康危機事象発生 の未然防止に努めます。 <<目標値>> 生活衛生に係る健康危機事象発生件数：0件(平成29年度3件) 平成30年度当初予算：14,261千円

(4) 動物愛護精神の啓発及び生活環境の保全	
方向性	人と動物が共生する社会を実現する取り組みとして、犬猫の殺処分ゼロをめざすために、猫不妊手術補助金交付件数の増加、終生飼養・適正飼養などの飼い主責任の周知啓発のさらなる推進を図ります。
取り組み	枚方市動物愛護基金を活用し、現在600件としている猫不妊手術補助金交付件数の増加、動物愛護啓発事業の拡充、動物の管理の質の向上に取り組み、動物愛護の精神及び動物の適正な飼養の啓発及び生活環境の保全を図ります。 <<目標値>> 増加後の猫不妊手術補助金交付件数：900件(平成29年度実績600件) 平成30年度当初予算12,987千円

(5) 自殺予防対策の推進	
方向性	誰もが「生きることの包括的な支援」として必要な支援を受けられるよう、保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策との有機的な連携を図ることで、自殺対策を総合的に推進します。
取り組み	<p>広く市民に自殺予防について啓発するために、「ゲートキーパー養成講座」の開催や相談窓口の周知を行うと共に、庁内外の関係機関とネットワーク会議を開催し、有機的な連携を図ります。また、自殺対策を総合的に推進するため、自殺対策計画を策定します。策定にあたり、自殺対策計画審議会で調査審議を行うとともに、「自殺対策に関する市民意識調査」をはじめ、関係団体等から広く聴取します。</p> <p>《目標値》</p> <p>ゲートキーパー養成講座受講人数：130人（平成29年度実績115人）</p>
	平成30年度当初予算：6,824千円

(6) 妊娠・出産から子育て期までの切れ目のない支援の更なる推進	
方向性	安心して楽しく子育てできる環境の充実のひとつとして、子育ての不安感や孤立感を取り除き、喜びを感じながら子育てができるよう、妊娠、出産から子育て期にわたる切れ目のない支援をさらに推進します。
取り組み	<p>妊娠・出産から子育て期、成人・高齢期まで切れ目なく、健康や子育てに関する相談・支援を実施する場として、北部支所内に開設した「すこやか健康相談室」について、地域での活動の充実を図るとともに、他地域への設置を検討します。また、これまで保護者の自己負担で受診していた「新生児聴覚検査」の費用助成を行い、保護者の経済的負担を軽減することで、受診率の向上をめざし、聴覚障害の早期発見・早期療育を図ります。</p> <p>《目標値》</p> <p>新生児聴覚検査 受診率：100%</p> <p>すこやか健康相談室での年間相談・支援件数：2,400人（平成29年12月～平成30年3月実績755人）</p>
	<p>平成30年度当初予算：1,036千円（市民の健康を支える地域拠点運営経費）</p> <p>7,043千円（新生児聴覚検査事業費）</p>

(7) がん対策の推進	
方向性	がんに関する知識の普及啓発に努めるとともに、がんを早期発見し、適切な治療に結びつけられるよう、各種がん検診について受診率向上や精度管理に努めます。
取り組み	<p>肝がん対策の一環として、対象者に肝炎ウイルス検診の無料クーポン券を送付します。また、乳がんの自己チェック方法について記載された「お風呂で乳がんチェック」シートを配布するなど、がんに関する知識の周知啓発を図るとともに、引き続き無料クーポン券の送付や効果的な受診勧奨を行い、各種がん検診の受診率の向上を図ります。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス検診受診者数 4,000 人（平成 29 年度 335 人） ・受診率 大腸がん検診 40%（平成 29 年度 7.7%） 乳がん検診 50%（平成 29 年度 14.2%） 子宮頸がん検診 50%（平成 29 年度 16.3%） <p>平成 30 年度当初予算：458,967 千円</p>

3. 行政改革・業務改善

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
相談業務の検証	「ひらかた健康ほっとライン 24」の設置に伴い、所内で実施している既存の各種相談業務について、相談件数の推移などを踏まえ、運営方法等の検証を行います。

4. 予算編成・執行

- ◆薬物乱用防止啓発事業について、枚方市こども夢基金（74 万 6000 円）を活用し、若年層に向けた取り組みの強化を図ります。
- ◆感染症予防対策、難病対策、がん検診の推進などの取り組みについて、感染症予防事業等国庫負担（補助）金を活用し、効果的な事業の運営を図ります。

5. 組織運営・人材育成

- ◆より質の高い地域保健サービスが求められる中、保健師の専門能力の向上を目的に、保健師人材育成ガイドラインに基づき、保健師の組織的・計画的な人材育成の体制を構築します。

6. 広報・情報発信

- ◆FM ひらかたを通して市民の暮らしや健康に役立つさまざまな情報を発信するとともに、放送内容をホームページに掲載することで市民に広く周知を行います。